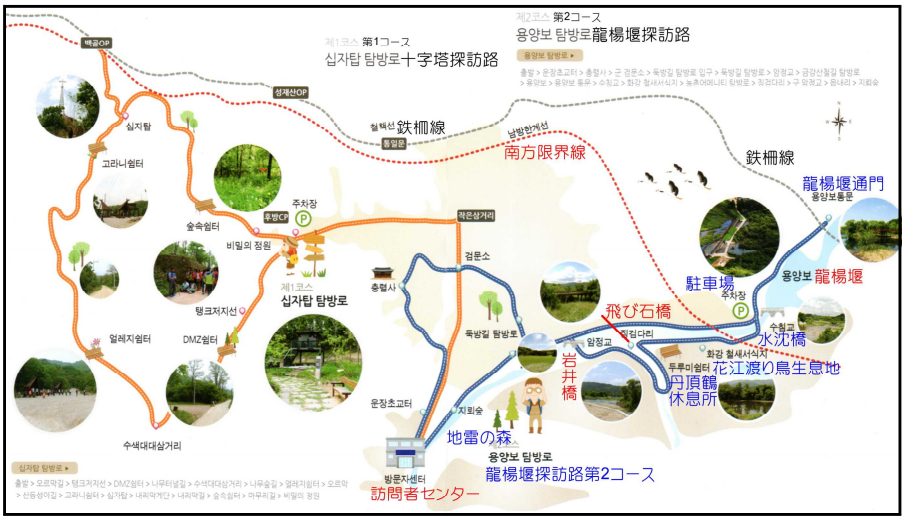
DMZ探訪記－2日目（鉄原その2・坡州）－

『むくげ通信』292号　2019.1.27より　近藤富男

前回は紙幅の関係でのせられなかったので、今回 3 ページ使わせてもらっておもいきって地図を 2 枚のせた。1 日目にまわったところは 1 枚目の地図で右上方の「金化」「勝利展望台」周辺。「生態平和公園」もこの近くにある。



その「生態平和公園」の地図もものせておく。このうち今回まわったのは第 2 コース「龍楊堰（ヨンヤンポ）探訪路」で、この地図の「龍楊堰通門」の手前までいったことになる。

2 日目は 1 枚目の地図のなかほど最北部「孤石亭」、「労働党舎」、「京元線」の先端部＝白馬高地駅、「坡州」の「都羅山駅」周辺をまわって、ソウルまでかえった。くわしくは次ページから。

2018 年 10 月 21 日、8 時 40 分訪問者センター出発。坡州へむかって車を走らせる。途中、いくつもの韓国軍部隊駐屯地が見える。いざという時に戦車の進行を妨害する道路脇のコンクリートのかたまりが何カ所もしつらえてある。

しばらく走って孤石亭で少し観光。朝鮮戦争当時の高射砲、戦闘機などが展示されている。その場所を

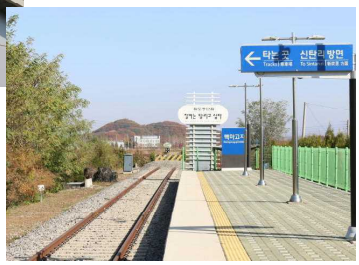
抜けて広場に出ると独特な形をした銅像が目に入った。大きく前後に足を開き手は何かをかき分けるように開いていて、左手はコンクリートの柱を後ろへなぎ倒している。誰の像なのか、後ろへ回って見たら「**林巨正**」とのこと。説明によると【イムコッチョン(=林巨正)は京畿道楊州の白丁長者出身で西暦 1559 年前後、黄海道、京畿道、江原道一帯を舞台に活動し、ここ孤石亭一帯でも石城をつくって「**活貧党**」活動を展開した大盗賊であった。盗賊ではあったが当時の腐敗した権力と階級社会の矛盾を打破して貪官汚吏の虐政、不正、腐敗、などに反抗し、苦しめられていた庶民の自由のために活躍した義賊だった】そうである。

ところどころに立っている孤石亭の案内碑には「1 億年前への旅」と書いてある。どうも、地質学的に珍しいものがあるらしく、見てみたかったが、時間がなく断念した。50 メートル以上、下を流れる川のところにおりる階段があってこれをおりるとなにかあるらしくおもえた。

そこからまたしばらく走ってついたのは「労働党舎＝鉄源警察署跡地」ここには**植民地時代に日本がこの辺りを管轄する警察署をおいた**ということで、写真のような立派な建物をたてたらしい。解放後は、**朝鮮戦争時に朝鮮側が入手し、労働党舎**としてつかったという。おそらくその後の韓国軍、国連軍の攻撃によるものとおもわれる爆撃の跡、銃撃の跡がなまなましくのこっている。観光客が大勢いて、なかに**統一旗をかこんで記念写真をとっている若者のグループ**があった。韓国の現在の雰囲気をあらわしているようだった。

坡州の統一村をめざして出発。この辺りは車が走っている道路の横にある鉄条網に「地雷危険」の小さな札がずっと並んで下がっている。国道から一歩藪に入ると、そこはまだ危険が取り除かれていないという現実がなまなましい。「民間人統制線以北の地域での山菜採集は不法です」と書いた横断幕が何か所もあった。

近くに「京元線」の現在の終着駅「白馬高地駅」があったのでちょっと立ち寄った。ホームにはソウルから 94km、金剛山まで 119km と書いてあるが、行ったときは少し手前の鉄橋の補修工事中で列車はここまできていなかった。12 月ごろからはここまで列車が来るといっていた。



しばらく走ってガソリン補給。セルフ給油である。

私たちも車から降りて、塀の向こう側を見ようとしていると、スタンドのおじさんが話しかけてきて、脇の階段を上れば向こうがよく見える、すぐ先の小高い山に「民統線」があるという。

上ってみると本当に目と鼻の先に小高い丘が見える。「**この4月（2018年4月）末まで北側が南に向けておこなう大音量の放送が毎朝うるさくてしかたなかったが、4月27日の会談以来、なくなってよかった。南側のスピーカーは北を向いているのであまり聞こえなかったが、北のはこっちを向いていたので本当にうるさかった**」そうだ。セルフのスタンドの給油機のところにビニールの手袋が置いてあって感心した。

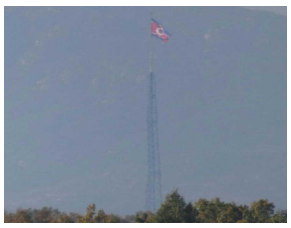
さて、統一村へ入るのは、少々面倒な手続きが必要であった。テレビのニュースでたとえば開城工業団地のことが報じられるとき何度か目にした場所でしばらく待つことになった。

まず、ここに至るまでの道路が大変混み合っていて、かなり激しい渋滞であった。道路脇に立っている案内を見ると、臨津閣でこのあたり名産の「人参祭」が行われているらしい。しばらくのろのろ進んで、この日特別に回り道をさせられていた「人参祭」に行く車がおおきくUターンするところをかなり強引に直進して上の写真の場所になんとか到着。入り口で軍人が数人いちいち確認して何やら書類を作成してから入るのだが、まず、統一村に入る合理的な理由が必要で、これは村にある食堂で食事の予約をしてあるということでクリアできる。実際に食事を予約していたのだが、電話で確認すると、いまお客が多くてしばらく待ってもらわねばならいという。道路脇に数台の車が行儀良く並んで待っていた。進入車線が 4 つあって最も左の車線は村で行う工事の車両などらしく、比較的スムーズに入っていく。一番右の車線は大型の観光バス用らしい。左から 2 つめの車線で待つこと約 30 分、食堂の人が準備ができたと迎えにきてくれる。このむかえがあってはじめて書類作成。パスポートをあずけてようやく入村できることになった。

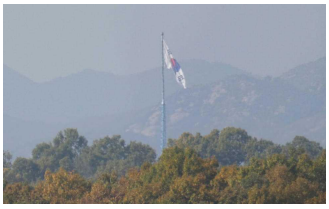
何度かニュースで目にしたことだが、片側四車線の道路に右に左に障害物が置いてあって、車はくねくね蛇行しながら進む。ここを過ぎたらあとは全く普通の道路と同じ。道路の上に、平壌まで何 km、開城まで何 km という表示があったのだが、あっという間に過ぎて写真を取り損ねた。

村の食堂に着いた。店内は最も混雑する時間が過ぎたのか、席にいくつか空きがある。人参もそうだが、大豆の産地だということで大豆のフルコース。スンドゥブが最もおいしかった。

食事後、さらに村の奥に入って、展望台へ。ここからは北の方がよく見える。数 km 先に分界線があるということで、**そこでは400mの空白地をはさんで南北の村が向かい合っているそうである。かつて、互いにそれぞれの国旗を高く、大きく掲げる競争をしていて、100m以上の鉄塔に、巨大な旗が掲げられている。**



今年購入した光学 60 倍のカメラで写した写真がこの 2 枚である。



最後は、やはりイムジン河である。ほとんど知られていないという、**隠れ展望台(?)**に案内してもらった。

看板ひとつとベンチがふたつ。それでも 10 数人の人がいた。ゆっくりと、ひろびろとしたイムジン川を見ることができた。歌詞そのままに、水鳥が数羽、群がって飛んでいた。フォーククルセダースと映画「パッチギ」を思い、南北のひとびとが自由に往来できる日がはやくくることを切にねがった。